

尾崎まさやの市議会報告

2020年

発行元 尾崎まさや 〒640-8287 和歌山市築港3丁目33 TEL(073)436-2858 FAX(073)436-1398

市中心部のコンパクトシティ化進む！

大学新設、市駅周辺再開発、城周辺の整備等

令和元年の昨年は、皆様に多大なるご協力とご支援を頂いたことで、今回も故郷和歌山市のまちづくりについて提言できる機会を頂いたことに感謝し、うれしく思っています。ありがとうございます。

現在のようには不透明な混乱の時代、国の内外ともに視界ゼロのような時代にあつて、最高指導者には、「目測力（もくそくりよく）」「結合力（けつごうりよく）」「説得力（せつとくりよく）」の三つが不可欠である――



こうおっしゃられたのは、昨年11月29日に天寿を全うされた偉大な政治家、大勲位中曾根康弘元総理です。『政治と人生』には、こう書かれており、目測力とは、問題処理する手続き、方法の見当をつける力。結合力とは、知恵と人材と良き資金を集め、これらを集中させる力。説得力とは、政策を内外に浸透させる力、とあります。

この中で言われている3つの力は本当に重みのある、重要なことだと感じています。現在、まちなかでは、小中一貫校の建設により、閉校となった耐震改修済の校舎を活用した大学誘致に成功。雄湊小学校跡には東京医療保健大学が一昨年4月に開学し、本町小学校跡には和歌山信愛大学が昨年4月に開学しました。それぞれの学校では昨秋、学園祭が行われ、相互の学生同士の交流が始まってきているということです。まちなかに学生がいるという効果は大きく、商店街の方々をはじめ周辺の住民の方々からも喜びの声を聞いています。

今年4月には宝塚医療大学が開学。令和3年4月には県立和歌山医科大学薬学部もでき、どんどん学生は増え、若者による賑わいももっと目に見えてくると思います。さらに、今年4月末には、市民図書館を含む南海和歌山市駅の再開発が終わり、グラントオーブンの運びとなり、商業施設やホテルなどもでき、本市の玄関口にふさわしい駅となります。これを核としたまちづくりが官民で進められていくことが期待されます。実際まちなかでは、本市が補助している北汀丁地区と友田町4丁目地区の再開発以外にも、民間による投資が進み、高層の分譲マンションの建設が多くみられるようになりました。木広町、西汀丁、本町1丁目、三木町では13〜15階建てのマンションが建設され、北汀丁と友田町4丁目の住居戸数を加えると450戸の居住スペースがまちなかに誕生することになります。更に、和歌山城ホール（新市民会館）・和歌山城前広場・市道中橋線・京橋親水公園など、和歌山城を中心とした整備も完成すれば、まちなかに新しい顔が生まれまします。私個人としても大変楽しみにしているところです。故中曾根元首相は、こうもおっしゃっています。『政治は『愛』だとか『優しい』と言った名詞や形容詞ではなく、『私はやる』という動詞で語るものだ。』肝に銘じ、精進していくことをお約束します。次頁以降は、昨年の12月議会本会議で行った一般質問の内容と、市当局の答弁です。今年もまちづくりについて提言を続けて参ります。



[住民提案のイメージパース]

砂山・今福まちづくりの第2期の都市再生整備計画は、平成23、24年度に「砂山・今福地区まちづくりワークショップ」が7回開催され、延べ300人以上の住民が参加。「災害に強いまちづくり」「安心安全のまちづくり」「次世代を育てるふれあいのまちづくり」「美しい、魅力あるまちづくり」という4つを目標にした「砂山・今福まちづくり提言書」をまとめ、本市に提案された。25年度には、まちづくり活動を行うNPO法人が2団体設立され、総合的なまちづくりを目指し、美化清掃や防火活動が継続的に行われ、現在は地域のまちづくりの担い手として都市

再生推進法人に指定。その結果、尾花市長になって、官民協働のまちづくりのモデルとして27年度からスタートした砂山・今福都市再生整備計画事業も今年度が最終計画年の5年目を迎えている。

地域の悲願でもあるコミュニティセンターの建設なども含めた次期計画策定について、どう考えているか。

まちづくり

市長「多世代の交流拠点、防災機能付加した複合施設が望ましい」

**国交省 和歌山河川国道事務所跡に
コミセン新設を**

和の観点から市としてアクションを起こすべきではないか。

を進めていくためにも渋滞解消が必要不可欠であるため、議員提案の改善策について関係機関に強く働きかける。また、直川45号線の改良は、予定している舗装改良工事の中で公安委員会と協議の上、対応していく。

「質問趣旨」北インター周辺の企業誘致を進めていけばさらに交通量が増し、渋滞が悪化するおそれがあります。周辺への影響を抑え、企業誘致促進のための利便性を高めていく上で渋滞解消は必要不可欠との観点から提言しました。

副市長 交通渋滞により、周辺商業施設の利用者や誘致した事業者にも多大な影響を及ぼしていることは認識している。今後の企業立地

副市長 南SIC周辺の「産業・物流機能ゾーン」の新規産業地区に立地企業はないものの、開発事業者への働きかけや進出に関心を持つ企業へ接触を図るなど取り組んでいる。一方、立地までに至っていない要因については、当該区域が元来、市街化を抑制すべき市街化調整区域である点、一定の開発のために地区計画の指定が必要となる点などがあると考えている。

副市長 企業立地を妨げている課題を精査中であり、関係機関と連携しながら解決を図っていく。また、企業立地促進奨励金制度やワンストップ窓口による企業への支援を通じ、南SIC周辺の企業立地促進に取り組む。

北インター周辺の産業振興は渋滞対策から



要因を精査・分析し、積極的な取り組みを行うことにより、企業立地を促す必要があるか。

わたしはこれまで、和歌山北インターチェンジの効果を発揮できるような、紀の川右岸線の整備を提案。紀の川大橋から北島橋の間が2車線に拡幅され、臨港地区からの大型車は、宮街道などの中心部を通行することなく青岸橋を渡り、右岸線を通って北インターから高速に乗って大阪に行けるようになった。それは良かったと思っ

現時点での南SICの企業誘致状況はどうか？立地が進んでいない原因をどう分析するか。

これは、県道を東進して、左折レーンに入り北インターへ侵入するとき、信号機に左折の矢印がないため、左折レーンが生かされていないことも要因だと考える。また、

副市長 南SIC周辺の「産業・物流機能ゾーン」の新規産業地区に立地企業はないものの、開発事業者への働きかけや進出に関心を持つ企業へ接触を図るなど取り組んでいる。一方、立地までに至っていない要因については、当該区域が元来、市街化を抑制すべき市街化調整区域である点、一定の開発のために地区計画の指定が必要となる点などがあると考えている。

副市長 企業立地を妨げている課題を精査中であり、関係機関と連携しながら解決を図っていく。また、企業立地促進奨励金制度やワンストップ窓口による企業への支援を通じ、南SIC周辺の企業立地促進に取り組む。

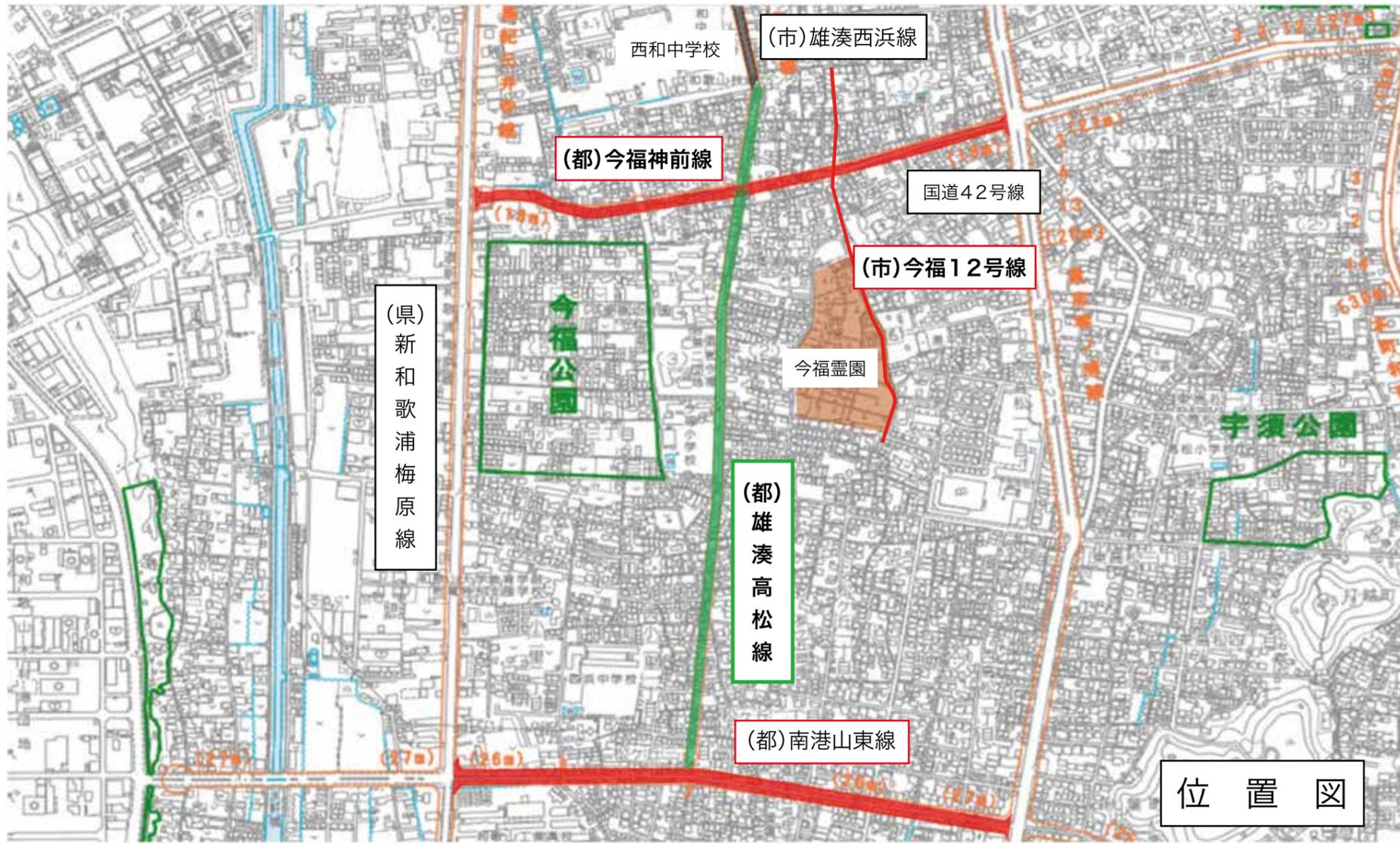
副市長 南SIC周辺の「産業・物流機能ゾーン」の新規産業地区に立地企業はないものの、開発事業者への働きかけや進出に関心を持つ企業へ接触を図るなど取り組んでいる。一方、立地までに至っていない要因については、当該区域が元来、市街化を抑制すべき市街化調整区域である点、一定の開発のために地区計画の指定が必要となる点などがあると考えている。

わたしはこれまで、和歌山北インターチェンジの効果を発揮できるような、紀の川右岸線の整備を提案。紀の川大橋から北島橋の間が2車線に拡幅され、臨港地区からの大型車は、宮街道などの中心部を通行することなく青岸橋を渡り、右岸線を通って北インターから高速に乗って大阪に行けるようになった。それは良かったと思っ

南SIC周辺の企業立地促進を

産業振興

副市長 企業立地を妨げている課題を精査中であり、関係機関と連携しながら解決を図っていく。また、企業立地促進奨励金制度やワンストップ窓口による企業への支援を通じ、南SIC周辺の企業立地促進に取り組む。



れるよう国と協議中だ。

平成29年12月議会で、国土交通省跡地及び和歌山財務事務所跡地をコミュニティセンターとして活用する検討が進められているが、その状況はどうか、という質問に対し、「現在、土地取得の方策の一つとして、国有財産特別措置法の適用を検討している。国交省跡地は、和歌山市史や和歌山市議会史によると、明治期、和歌山市が歩兵第61連隊の誘致活動を行うために取得したという歴史的経緯があり、国に譲渡した土地の一部であることが証明できれば、有利に譲渡を受けられる可能性が考えられるため、当時の資料の収集や調査に取り組んでいる」との答弁だった。その土地の歴史的背景と国との交渉についての進捗状況はど

うなっているか。

市長 明治期に和歌山市が旧湊村の土地を購入して陸軍に寄付し、歩兵第61連隊を誘致したことが、市史と市議会史、国立公文書館アジア歴史資料センターの資料に記載されている。この歴史的背景があることから、国交省河川国道事務所跡地に、かつて市が寄贈した土地が含まれていると判断し、国有財産特別措置法を適用して有利な条件で譲渡できるように、和歌山財務事務所を窓口で国と交渉している。

国土交通省跡地における第8ブロックのコミュニティセンターの検討はどうか。

市長 これまでのまちづくりの議論を踏まえ、文教施設が集積しているなど地域の特色を活かした施設となるよう検討中。子育て環境や生涯学習環境を整え、文化活動等を通じた多世代間の活発な交流を促進させる拠点とするとも

設となるよう検討中。子育て環境や生涯学習環境を整え、文化活動等を通じた多世代間の活発な交流を促進させる拠点とするとも

今福神前線と既存道路の取付部は狭隘対策が必要

今福霊園に通じる市道の幅を

この地域の公共交通網に関し、都市計画道路「今福神前線」が事業着手し令和5年度完成予定と聞いている。私は2年前の一般質問で、今福神前線が完成すれば、改定前の都市計画マスタープランで掲げられていた内環状道路が完成することになり、今福神前線を生かすためバス路線の運行をすべきではないかと提案した。

本市中心地域のまちの機能を十分に発揮させることのできるJR和歌山駅、南海和歌山駅を經由し、国体道路、大浦街道を通る環状ルートでのバス路線の運行を検討すべきと思うがどうか。

総務局長 提案ルートは、交通結節点であるJR和歌山駅、南海和歌山駅とともに中心部地域を取り囲む切れ目ない効率的な公共交通網が形成され、移動の円滑化や市民生活の向上が期待される。新規バス路線の開設は、バス事業者の乗務員不足の問題から現状は難しいと聞いているが、環状ルートも含め引き続き検討していきたい。

今福神前線の整備計画では

旧市街地の中で暫定形でも供用していない道路であるが、まちづくりの中で重要と考える。都市計画道路は現在、事業化されている路線が完成すれば整備率約78%になる。残りの未整備路線は様々な観点から、優先順位を考えて次期整備路線を決めていく必要がある。特に防災の観点から今後重要。雄湊高松線の未整備区間には、今福小学校や西浜中学校もあり、地域の防災の生命線でもある。

都市建設局長 狭隘道路の幅員には沿道住民の理解と協力が必要であり、今福神前線の取付部の先行拡幅も狭隘道路と連携して進めていく必要がある。通行の安全性を公安委員会と協議しつつ進めていく。

都市計画道路「雄湊高松線」は、今福神前線と南北に交差し、大浦

街道と並行する都市計画道路で、旧市街地の中で暫定形でも供用していない道路であるが、まちづくりの中で重要と考える。都市計画道路は現在、事業化されている路線が完成すれば整備率約78%になる。残りの未整備路線は様々な観点から、優先順位を考えて次期整備路線を決めていく必要がある。特に防災の観点から今後重要。雄湊高松線の未整備区間には、今福小学校や西浜中学校もあり、地域の防災の生命線でもある。

路線であることは承知しているが、その進捗状況や重点整備区間道路の実施状況をみながら整備時期を検討していく。

和歌の浦の活性化に関し、ほうらい荘跡地が未だ未利用となっているが、跡地利用についての市長の考えはどうか。

市長 一時的なニューポイントとして活用できないか、検討したが、地形上の問題や防護壁の設置など安全対策が必要で大規模工事となり、和歌浦湾やほうらい岩を一望できる素晴らしい場所にあることから跡地利用が進むよう諸課題を解決し、有効利用を図っていく。

雄湊高松線を早期に事業着手すべきと考えるがどうか。

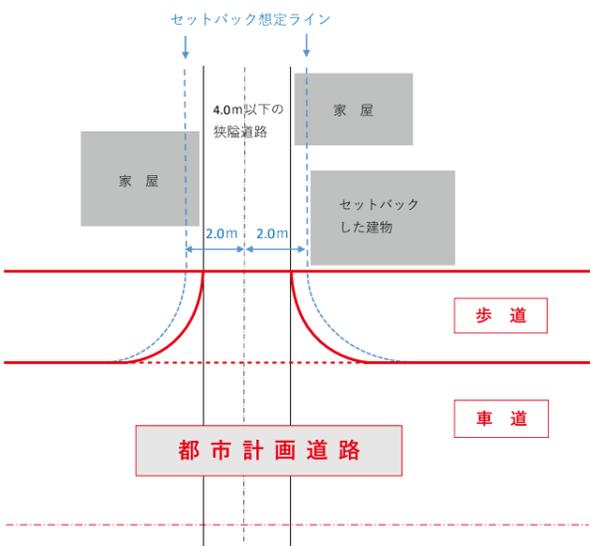
都市建設局長 雄湊神前線は、現在整備中の今福神前線と交差する

雄湊高松線を早期に事業着手すべきと考えるがどうか。

雄湊神前線は、現在整備中の今福神前線と交差する

提案

狭隘道路（市道）の先行拡幅を想定した取付部の整備



水軒川・築地川の津波・高潮対策急務

和歌山県作成 津波浸水想定図 東海・東南海・南海3連動地震を想定

平成25年3月作成

防災対策

水軒川・築地川の津波・高潮対策について。一昨年9月の台風21号では、第二室戸台風以来の高潮・高波に見舞われ、護岸の一部が崩壊するなど多くの被害に見舞われた。水軒・築地川でも堤防高きりぎりまで水位が上がり、もう少しで堤防から水が溢れ出すような状況だった。

東海・東南海・南海3連動地震による本市の津波予測は、高さは約6m、到達するまでの時間は約50分と想定されている。水軒川、築地川沿い地域の浸水深は約1〜2mで、この地域には花王をはじめ多くの工場が集積し、人家も密集している。

専門家に聞くと、「津波が発生すると、紀の川左岸から雑賀崎までの沿岸部は、港湾背後の防潮林の効果が大きく、特に水軒川の河口部は地形的にもその効果は大きい。松林が津波の侵入を防ぐと考えられるが、水軒川と市堀川、築地川の河口部から津波が遡上し、河川沿いの地域に溢れ出し被害が生じる。このため、水軒川、築地川の河口部3か所に津波水門を設置し、防潮堤の高上げを行い、防護ラインを設けることで津波の侵入は防げる。全体としての被害軽減の効果が大きい」との見解が示された。

水軒川・築地川の津波・高潮対策の取組状況は？
都市建設局長 県策定の紀ノ川水系和歌山市域河川整備計画では、東南海・南海地震などを想定した

私が伺った専門家の意見を踏まえ、沿川や築港地区の津波・高潮対策について市長はどのように考えるか。
市長 県管理の水軒川及び築地川

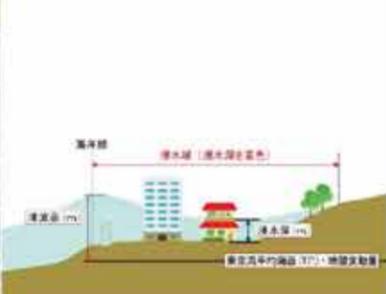


- 【留意事項】
- この図に関する詳細な説明については、「津波浸水想定について」をご覧ください。
 - 「津波浸水想定」は、東海・東南海・南海3連動地震による津波が悪条件下において発生した場合に想定される浸水の区域（浸水域）と水深（浸水深）を設定するものです。
 - 東海・東南海・南海3連動地震による津波は、現在の科学的知見を基に、過去に実際に発生した津波や今後発生が想定される津波から設定したものであり、これよりも大きな津波が発生する可能性がないというものではありません。
 - 津波浸水想定は、津波による災害や被害の発生範囲を示すものではないことにご注意ください。
 - 浸水域や浸水深等は、津波の第一波ではなく第二波以降に最大となる場所もあります。
 - 浸水域や浸水深等は、地面の凹凸や構造物の影響等により、浸水域外でも浸水が発生したり、局所的に浸水深がさらに大きくなったりする場合があります。
 - この津波浸水想定では、津波による河川内や湖沼内の水位変化を明示していませんが、津波の遡上等により、実際には水位が変化することがあります。

【用語について】

浸水域：海岸線から陸域に津波が遡上した外縁までの範囲

浸水深：陸上の地点で水面が最も高い位置にきたときの地面から水面までの高さ



凡例

- 0.01m以上 0.3m未満
- 0.3m以上 1.0m未満
- 1.0m以上 2.0m未満
- 2.0m以上 3.0m未満
- 3.0m以上 5.0m未満
- 5.0m以上 10.0m未満
- 10.0m以上 20.0m未満
- 20.0m以上

--- 県境界 市町境界

— 高速道路(阪和自動車道)

— 幹線道路(国道42号線)

— 鉄道(JR線) ● 主要施設

は、3連動地震など切迫性の高い大規模地震による津波や頻発する台風による高潮・高波に備えた防波堤や水門・樋門の設置、河川・海岸堤防の嵩上げなどといった防護対策がされておらず、河口部からの津波遡上や高潮により、沿川地域を中心に大きな被害の発生が想定されることから、防護施設の整備は必要。

防護施設の整備促進をこれまでも国・県に対して要望してきており、引き続き要望していく。また、築港地区は周囲を運河に囲まれた地域特性を十分理解しているのので、地域住民が安心できるように避難対策などに取り組んでいく。

平成31年4月4日、築港自治会が市長に「地域性を考慮した防災施設の設置」に関する陳情をしました。また、平成28年11月には津波避難ビル等の設置に関する嘆願書を提出している。しかし、以降築港地区内において具体的な津波避難用高台施設の確保には至っていない。

築港自治会から要望があった、築港地区内における津波避難ビル等、津波避難用高台の確保の進捗状況はどうか。

危機管理局長 平成31年3月28日に和歌山下津港湾事務所の庁舎と

津波避難ビルの協定を締結。引き続き、避難機能を有する施設の確

保に向け、取り組んでいく。

所有者不明の橋梁、

市管理で安心安全を

2年前の一般質問で、和歌山市太田の所有者不明の2つの橋梁を例に出し、市が管理すべきではないか、と聞いたところ、市長は「災害時に孤立集落を招くもの、通学路や不特定多数の方が利用しているものなど市民生活に密着しているものは市が管理するのが望ましい

いので、管理できるよう課題解決に取り組み」と答弁された。管理者がいなければ、耐震化や長寿命化の対策は行われることな

く、防災面や安全面の不安は増すばかり。しかし、現時点で太田の橋梁が市の管理になったとは聞いていない。

所有者不明の橋梁を市が管理できるようにする取組状況はどうか。



都市建設局長 令和元年度内に所有者不明橋梁のうち、災害時に孤立集落を招くおそれのあるもの、通学路及び市民生活に密着しているものについて管理ができるよう要綱の策定を行っている。策定後は、太田の橋梁を含む対象橋梁の選定を行い、市道認定ができるよう取り組む。

あとがき



つです。ここでは太田地区の橋梁について質しましたが、橋梁や水道管だけでなく老朽化により傷んだ建造物ほどの地区にもあります。それらが地震や台風などで崩れてしまつたら…。

和歌山市では、新年が明けて早々、花山水系の水道管漏水に伴う断水騒ぎがあったかと思うと、現在は新型コロナウイルスの世界的流行で死者が多数出るなどして世界中で不安が広がっていることに加え、その影響による株価暴落、東京五輪開催の延期など経済の先行き懸念が高まっています。

また「狭隘道路対策」は老朽化とは少し違う問題ですが、これからまちづくりを進めていく上で防災上の観点から必ず対策が必要となってくることです。これらはこれまで見過ごされがちだった部分ですが、スポットを当てることで市当局だけでなく市民の皆様にも意識を高めていただき、様々なリスクをできる限り抑えて安心安全な社会の構築につなげていければと考えます。

多岐にわたるリスクに十分対応できる社会の構築は簡単なことではないですが、それでもリスクマネジメントに対する意識は急速に高まっているのではないのでしょうか。

今回の断水騒ぎに象徴されるよう老朽化したインフラは市内に多くあります。お届けした私の一般質問の中にある「所有者不明の橋梁」もその一

皆様のご協力よろしくお願致します。

尾崎 正哉